

とうきょう すくわくプログラム活動報告書

施設番号	66-0357
施設名	光明第二保育園
施設所在地	東京都小金井市貫井南町1-13-17
法人名	社会福祉法人 多摩養育園

1. 活動のテーマ

<テーマ>

いのち(生命の尊さ)

<テーマの設定理由>

(テーマに関する子どもの興味関心、園の特色など)

蚕を育てることで、命の大切さや命のもろさ、その命で自分たちの生活が成り立っていることをしり、生命の尊さを感じる。

〈光明学園 保育方針 和の保育方針 自然 生命 (いのち) 〉

生命の不思議さと尊さを知る。

2. 活動スケジュール

10月 蚕4令を購入。

10月～1月 一人一人1匹を担当し、名前を付け個々の箱を用意し飼育スタート。
各自で掃除、餌をあげ。蚕の成長の観察。命の尊さや大切さを知る。

3. 活動のために準備した素材や道具、環境の設定

(活動のためにどのような環境を設定したか、準備した素材や道具)

蚕生育キッドの購入。(オス、メスの違いで繭の色が違うものと人口餌セット)

人口餌は保育者が小さく切り分け、自分たちであげられるように準備。

4. 探究活動の実践

<活動の内容>

年長組で実施。各自1匹を自分で育てた。名前をつけ、毎日、掃除をしたり餌をあげたりした。繭になるとオスが白、メスが黄色になった。繭そのままにし、成虫（蛾）にし、蛾は飛べるのになぜ、蚕の蛾は飛べないのかに気づき、調べることが出来た。毎日世話をしたが、死んでしまう蚕もいた。お墓を作って手を合わせて命の尊さをしることが出来た。

<活動中の子供の姿・声、子供同士や保育者との関わり>

(活動の内容、活動中見られた子どもの姿、保育者との関わり等)

一人一人に蚕を1匹ずつ担当をし、名前をつけ、子どもたち同士でも餌がなくなっているとお互いに教え合い、保育園を休んでいる子の蚕のお世話もしてくれていた。蚕に触れることが出来る子は手に持ち、年下の子に見せてあげたり触れさせてあげる姿も見られた。土曜日が休みの子の蚕には職員が代わりに世話をした。また、死んでしまう蚕もいた。大墓をつくり、手を合わせて命の大切さと尊さをしることが出来た。



5. 振り返り

一人一人に1匹の蚕を担当してもらったことで、名前をつけ愛着を持って育てることが出来た。毎年育てているが、担当をしてもらったことで自分でという思いが強くなり、一生懸命に世話をしていた。また、オスをメスで繭の色が違うことでどっちかという楽しみさもあった。死んでしまう蚕もいたので、命の尊さや大切さを知る良い機会になった。